



報道関係者各位

株式会社ピースマインド

景気変動は40代ビジネスパーソンのメンタルヘルスにダメージ ー リーマンショック後の働く人の悩みを7000件のデータを基に大規模調査 ー

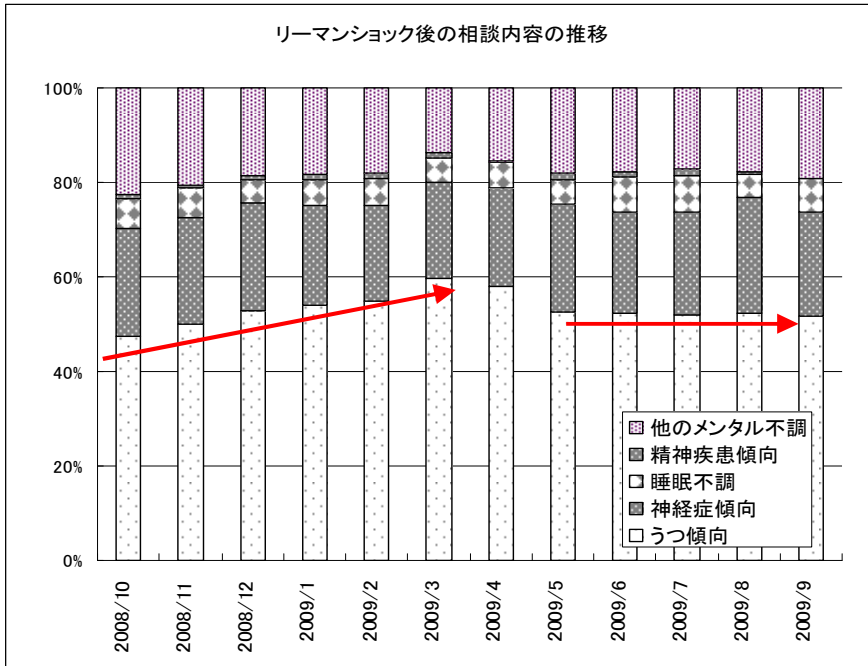
メンタルヘルスサービスを提供する株式会社ピースマインド（本社：東京都中央区、代表取締役社長：荻原国啓、以下ピースマインド）の調査・研究組織「ピースマインド総合研究所」は、6964件のカウンセリングデータを基に、リーマンショック後の利用者の相談内容について調査・分析、その傾向をまとめました。調査概要と主な分析結果は以下のとおりです。

【 調査・分析結果の概要 】

背景・目的	リーマンショックに端を発する世界的な経済不況は、日本の産業界にも多大な影響をもたらし、企業はコスト削減やリストラといった厳しい景気対策を余儀なくされている。これらの急激な変化は、職場環境にもさまざまな歪みを引き起こし、働く人々のメンタルヘルスにも大きく影を落としていると思われる。ピースマインドでは、カウンセリングサービス利用者の相談内容の傾向について定期的に分析を行っているが、リーマンショックからちょうど1年が経過した現時点において、2008年10月を境に、その前後で相談内容の傾向に相違がみられるかについて分析を試みることにした。景気の変化が、働く人々のメンタルヘルスにどのように影響するかについて分析し、EAP（従業員支援プログラム）サービスをはじめとする、各サービスの質向上に役立てる。
対象	ピースマインドの契約企業・団体従業員及びその家族のうち、カウンセリングサービス（対面、電話、オンライン）の利用者 男性：3647件、女性：3317件、計6964件（のべ件数）
期間	2007年10月～2008年9月 2008年10月～2009年9月 計2年間
方法	カウンセラーによって記録されたカウンセリングデータを基に、DSM※分類による利用者の疾病傾向と、環境的要因を解析。本調査では特に相談内容について解析を行った。 ※ DSM 『精神障害の診断と統計の手引き』（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）アメリカ精神医学会作成の略 疾病傾向については、カウンセラーが医師による診断結果を利用者から聞き取った内容を基に分類 環境的要因については、カウンセラーが利用者から聞き取った内容を基に分類
結果	<p>① リーマンショック後、うつ傾向のカウンセリング利用者が増加 うつ傾向の利用者は、リーマンショック時の2008年10月から2009年3月までの間に、47%から60%まで増加。</p> <p>② リーマンショック後、40代のカウンセリング利用者が増加 40代の利用者が、リーマンショック時の2008年10月から2009年3月までの間に、28%から37%へと大きく増加。 ※従来の傾向として、ピースマインドのカウンセリング利用者は30代の占める割合が最も大きかったが、2009年2月には40代が最大利用層となっており、初めて30代と逆転する形となった。</p> <p>③ リーマンショック後、「仕事の質」に悩む利用者が増加、「職場外の人間関係」に悩む利用者は減少 相談テーマとして「仕事の質」に悩む利用者は12位から5位に上昇。他方、「職場外の人間関係」に悩む利用者は6位から11位に後退。</p> <p style="text-align: right;">※ 調査結果詳細は別紙参照</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・景気の低迷は、うつ傾向のビジネスパーソンを増加させる。 ・景気の低迷は、特に働き盛り40代ビジネスパーソンのメンタルヘルス不調をもたらす。 ・景気の低迷により、悩みのテーマが変わり、仕事の質に関する悩み事が増加する。 <p>景気の低迷は、経済的不安や業務変化などにより、ビジネスパーソンのうつ傾向をまねき、特に企業経営や家庭の経済的基盤を支える40代ビジネスパーソンのメンタルリテリに大きく影響するといえる。また、うつ傾向の利用者数は日経平均株価の下降と共に増加し、そのピークが株価底値の時期と一致するなど、年間推移においても連動性がみられ、何らかの相関関係を示すものとして注目できる。今後さらなる研究につなげたい。</p>



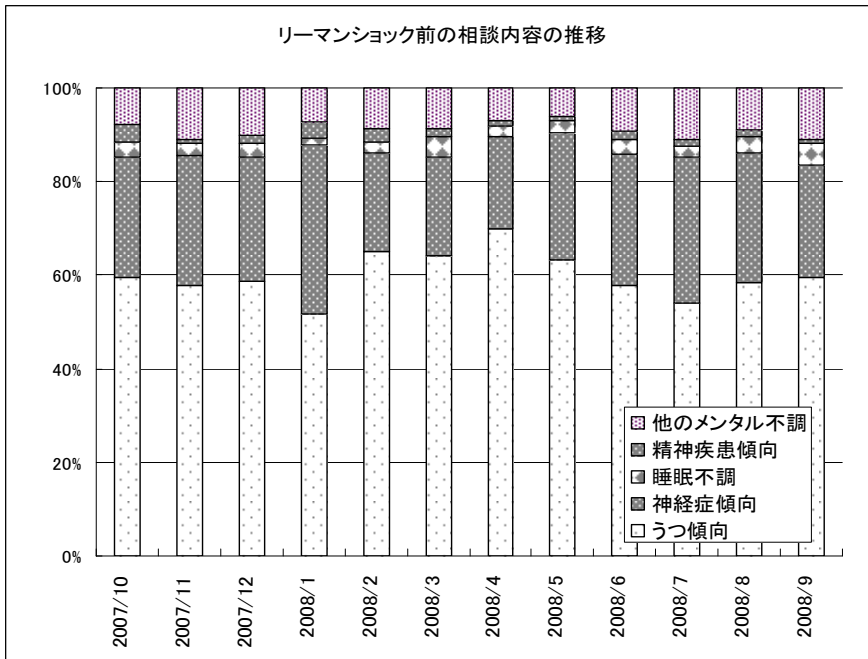
【 相談内容の変化（疾病傾向） 】



リーマンショック後の推移 2008年10月～2009年9月

リーマンショック後から年度末の3月にかけて「うつ傾向」が増加、4月以降は横ばい。この動きは、日経平均株価の下降と下げ止まりの時期と一致しており（参考図①部分参照）、何らかの相関関係を示している可能性がある。

「うつ傾向」ピーク： 3月
株価の底値： 2月



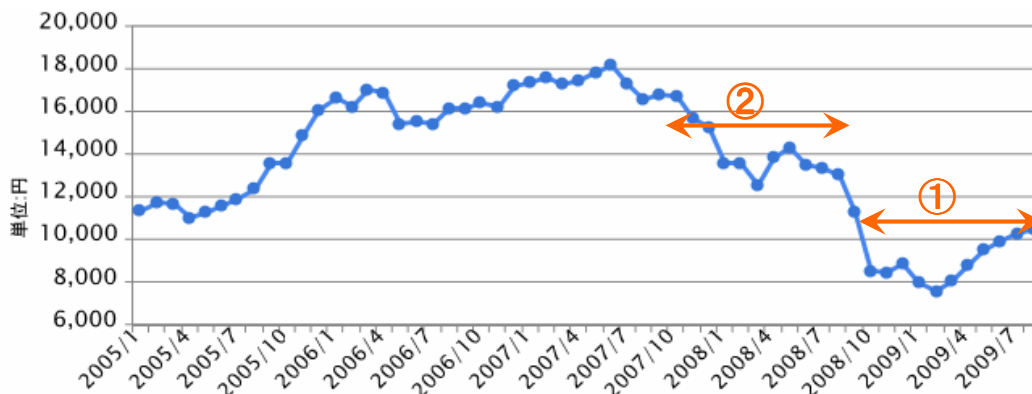
リーマンショック前の推移 2007年10月～2008年9月

特に「うつ傾向」に一貫した傾向はみられない。ただし、リーマンショック後同様、「うつ傾向」のピークと株価底値の時期が一致（参考図②部分参照）。

「うつ傾向」ピーク： 4月
株価の底値： 3月

<参考図>

日経平均株価の推移

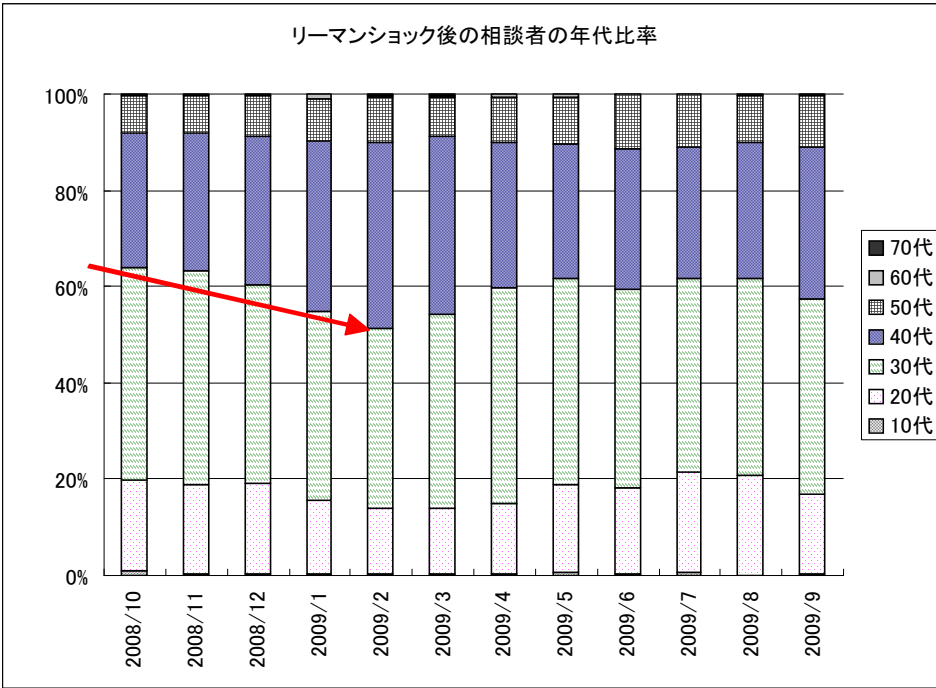


日経株価情報を基に作成



【 カウンセリング利用者層の変化 】

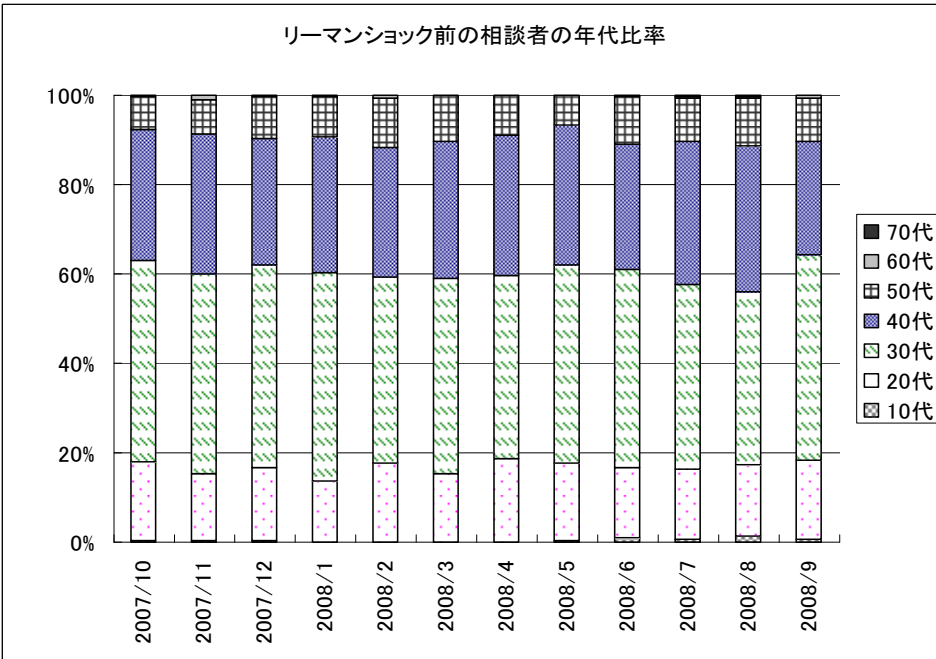
リーマンショック後の相談者の年代比率



リーマンショック後の推移 2008年10月～2009年9月

リーマンショック後に40代の比率が増加し始め、2月にピークに達し30代と逆転。4月以降の動きは横ばい。相談内容の変化の動きと連動性がみられる。

リーマンショック前の相談者の年代比率



リーマンショック前の推移 2007年10月～2008年9月

40代の推移に特に一貫した傾向はなく、年間を通して30代が最大利用層。



【 相談内容（環境的要因）の順位 】

2007年10月～2008年9月

2008年10月～2009年9月

リーマンショック前			リーマンショック後		
	項目名	比率		項目名	比率
1	家族関係	18%	1	家族関係	16%
2	自己理解	14%	2	自己理解	15%
3	職場の対人関係	12%	3	職場の対人関係	14%
4	休職復職関係	11%	4	休職復職関係	7%
5	仕事の適合性	6%	5	仕事の質	6%
6	職場外の対人関係	6%	6	身体健康	6%
7	身体健康	5%	7	仕事の適合性	5%
8	仕事の量	5%	8	仕事の量	5%
9	キャリア	5%	9	キャリア	5%
10	物理的職場環境	4%	10	その他のプライベート	4%
11	仕事や職場の変化	4%	11	職場外の対人関係	3%
12	仕事の質	2%	12	仕事や職場の変化	3%
13	その他のプライベート	2%	13	組織・制度	2%
14	仕事のコントロール度	2%	14	仕事のコントロール度	2%
15	ハラスメント関係	2%	15	その他職業関係	2%
16	教育関係	1%	16	身体負担	2%
17	その他職業関係	1%	17	ハラスメント関係	1%
18	組織・制度	1%	18	教育関係	1%
19	生活環境	1%	19	物理的職場環境	1%
20	問題行動	0%	20	生活環境	0%
21	身体負担	0%	21	問題行動	0%

「仕事の質」が12位から5位に上昇。「職場外の人間関係」は6位から11位に後退。上位4項目は変化なし。

※ 調査結果の一部をご紹介させていただいております。詳細につきましては、下記までお問合せくださいますようお願い致します。



■ 株式会社ピースマインド 会社概要

<本社所在地>

東京都中央区八重洲 2-2-1 住友生命八重洲ビル 4F

<代表取締役社長>

荻原 国啓

<資本金>

90,250,000 円

<事業内容>

メンタルヘルスに関するコンサルティングやEAP（従業員支援プログラム）サービスを中心に、取引企業・団体数 300、サービス提供対象人数 130 万人、カウンセリング件数年間 2 万件以上の実績を有する業界のパイオニア企業。個人および組織の問題解決と新たな価値の創造を目指し、日本で先進的にEAP とカウンセリング事業を展開している。主要都市駅前・ホテルでのカウンセリングルームの直営展開、カウンセリングの新しい形であるオンラインカウンセリングサービスの開発、世界最大手EAPプロバイダーとの業務提携による海外在住者向け支援サービスの提供、WEBを活用した本格的EAPサービスの開発など、これまでになかった新しいサービスを積極的に開発・展開し、日本におけるメンタルヘルスサービスの新しい概念・価値を生み出し続けている。臨床心理士、精神保健福祉士、シニア産業カウンセラー等、200 名以上に及ぶ国内最大規模のカウンセラーネットワークをはじめ、医師、産業保健専門職等のメンタルヘルスの専門家および人事に関するコンサルタント等の多彩な専門家が相互に協力を図り、幅広い分野の問題解決のサポートを行っている。

■ 本件に関するお問合せ・取材等のお申込み先

株式会社ピースマインド

コーポレートコミュニケーション室 広報担当：多恵（タエ）

TEL：03-3242-5777 FAX：03-3242-5775

E-mail：press@peacemind.com